

人権の大切さを考える～授業参観・人権教育講演会

11月14日(木)、各学年で人権をテーマにした授業と『人権教育講演会』を行いました。お忙しい中、来校された保護者のみなさま、学校運営協議会委員のみなさま、ありがとうございました。参観授業について、担任(授業者)の思いを語っていただきましたのでご紹介します。



1年「いじめにあたるのはどれだろう」・・・1年生は入学当初からお互いに助け合い、日々仲よく過ごしています。“仲がよい”のが当たり前ですが、一度立ち止まって考えてみる機会をつくろうと思いました。「それって本当に仲がいいの? 実はいじめだったりして・・・」学級の様子を表したイラストから、いじめとそうでなさそうなもの考えることを通して、相手の立場に立って考えることの大切さを再確認しました。

2年「妹に」・・・『いのちを考える』3部作の授業の一つです。新しいいのちについて、同じ中学2年生が書いた詩「妹に」を読み、詩から感じ取れる「いいな」をたくさん見つけて発表し合いました。保護者のみなさんから「いいな」の意見を出していただき、妹の誕生から家族がさらに絆を深め、親から子へ受け継がれていく「ずっとつながっているいのち」について考えました。数え切れないご先祖様がいて、誰一人欠けることができない、今ここに自分がいるといういのちの不思議を感じながら、一日一日を大切に生きてほしいです。



3年「その子の世界、私の世界」・・・現在、生活水準は向上し、ネット環境も充実するなど本当に恵まれた環境で私たちは生活ができています。しかしながら、世界の他の地域では、紛争、貧困、難民、児童労働など様々な社会問題が起きていることも事実です。そんな現実と向き合い、今の私たちにできることを考えました。当たり前を当たり前と思わず、日々感謝の心を忘れず、生活してほしいです。

PTA親睦ソフトバレー大会がありました

11月16日(土)、柳井小学校体育館で「第29回柳井市小中学校PTA 連合会親睦スポーツ大会」が行われました。今年も市内の小・中学校より多くの参加があり、大畠中学校愛育会チームは、残念ながら決勝トーナメントには進めませんでしたが、各所に好プレーがあり、さわやかな汗を流すことができました。また夜には懇親会も行われ、井原市長や西元教育長も参加される中、他校のPTAのみなさんとの親睦を深めました。

参加された愛育会のみなさん、お疲れ様でした。



「障害と共に生きる」～人権教育講演会

さまざまな人権課題に対する理解と実践力を高めることを目的に、毎年「人権教育講演会」を実施しています。今年度は、「障害と共に生きる」をテーマに、ウィルチェアーラグビー（車いすラグビー）チーム「福岡ダンデライオン」の工棟 徹（くどう とおる）さんをお招きしてお話を伺いました。また、国際試合で日本代表経験もある堀 貴志（ほり たかし）さんも一緒に来校してくださり、車いすラグビーの体験もさせていただきました。



県内在住で消防士の工棟さんは、アクアスロン（水泳と長距離走を続けて行う競技）で海に飛び込んだ際に頸椎を骨折し、車いすの生活になられたそうです。入院していた時に見た「マダーボール」という映画がきっかけで、退院後に大阪の車いすラグビーチームを訪ねられ、即決でこの競技に挑戦することにして、すぐにのめり込んでいかれたそうです。堀さんたちが福岡にチームをつくることになり、立ち上げから参加されて、チームの成長とともにご自身も日々成長されているとのことでした。「違い



車いすのぶつかり合いを体験する
沖本先生～激しいスポーツです

を理解し、認め合うこと」「できることに全力投球すること」「できないことはほどほどに（笑）」と、ご自身の経験を通して得られた一言一言に、生徒たちは真剣に聞き入っていました。



今回は、生徒全員が競技用の車いすを体験させていただき、特に3年生はミニゲームを行いました。工棟さんと堀さんのチームに対して、車いすを操作しながらパスを回し、トライをめざしました。かつて、「マダーボール（殺人球技）」と呼ばれていたその激しさに驚くとともに、比較的重い障害のある人も競技できるパラスポーツとしての楽しさも体感することができました。

【 生徒の感想から 】

- 車いすラグビーは男女混合、障害の重さによって持ち点が違うなどのルールがあることを知って驚きました。実際に体験して、タックルの迫力がすごかったのが印象に残っています。
- 今回、印象に残る言葉がいくつもありました。特に印象に残った言葉は、「できることに全力投球」です。ダンデライオンの方々が、できることに全力投球してすごいなと思いました。
- 障害があってもスポーツなど様々なことができるということがわかりました。ルールを合わせてやれば、楽しむことができることがわかりました。車いすラグビーの体験ができてよかったです。
- 車いすラグビーはとても危険なスポーツのような感じでしたが、見ていたらやっている全員が笑顔でとても楽しそうでした。障害のある人もパラスポーツを通して楽しめれば良いと思いました。
- この授業を受けるまでは、障害者はかわいそうで、自分たちとは全く違うと思いこんでいました。ですが、できることが自分たちより少ないだけで、ちゃんと働けるし、自分と同じようにスポーツを楽しむことがわかりました。今までは障害者というだけで距離をおいてしまいましたが、これから距離をおかず、話して仲良くなりたいと思いました。
- 私は今日のお話を聞いて、工棟さんが言っていたとおり、みんな違って当たり前だと思いました。みんな一人一人違うし、障害があってもなくても、お互いを理解し、認め合える社会になってほしいと思いました。

～工棟さん、堀さん、ありがとうございました！